川崎市建築物環境配慮制度受付番号　22036

建築物名称	明治大学生田キャンパス第二中央校舎(仮称)整備計画
建築主	学校法人明治大学　理事長　柳谷　孝
建築物の所在地	川崎市多摩区東三田一丁目3750番他52筆
設計者氏名、建築士事務所名	原田　由紀　株式会社日建設計　一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	13,278.53㎡
用途	大学
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上6階
工事完了年月	令和7年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

Comprehensive Assessment System for Built Enviroment Efficiency

CASBEE川崎

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版　　使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

1-1 建物概要

建物名称	明治大学生田キャンパス 第二中央校舎(仮称)整備計画	階数	地上6F
建設地	川崎市多摩区東三田一丁目3750番ほか52筆	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域・準防火地域	平均居住人員	3,418 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 竣工	評価の実施日	2024年1月12日
敷地面積	148,232 ㎡	作成者	藤田 健児
建築面積	2,901 ㎡	確認日	2024年1月12日
延床面積	13,279 ㎡	確認者	原田 由紀

1-2 外観　22036

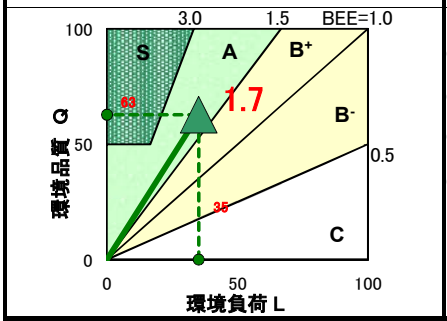
外観パース等

パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

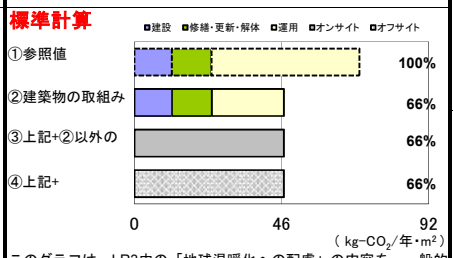
BEE =1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



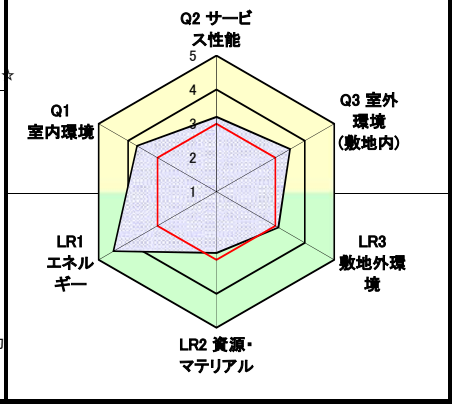
2-2 ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

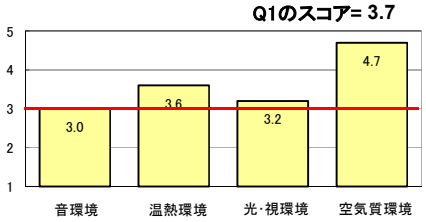
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



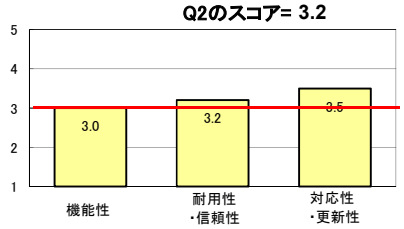
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.5

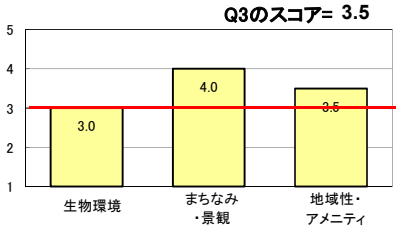
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.7



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.2

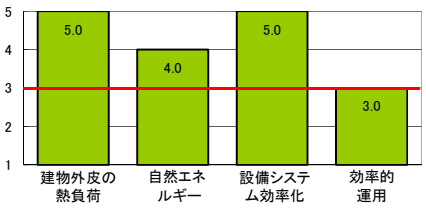


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.5

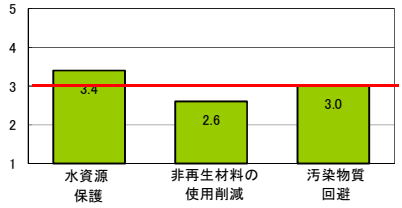


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.5

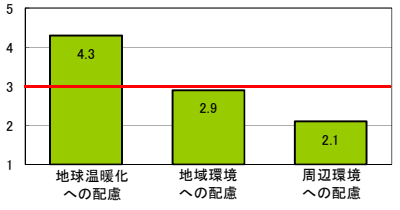
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.5



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 2.8



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.1



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2017(v.3.1)

明治大学生田キャンパス 第二中央校舎(仮称)整備計画

22036

重点項目についての環境配慮概要

内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。	実績重点項目スコア合計/重点項目最高点のスコア合計	重点項目への貢献点 注)(5点満点)
緑の保全・回復(G)		**Gの平均点**	**2.8**
Q-3 ■室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	周辺生態系に配慮した植栽 既存樹林地および草地の保全・回復 屋上緑化	3.0/4.3	3.5
LR-3 ■敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	主要窓ガラスのLow-e採用	0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		**Wの平均点**	**3.1**
Q-1 ■室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	主要窓ガラスのLow-e採用 ハイサイドライトの採用 ブラインドの採用	0.6/0.9	3.2
Q-3 ■室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	周辺生態系に配慮した植栽 屋上緑化	1.4/2.3	3.0
LR-1 ■エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	主要窓ガラスのLow-e採用 ハイサイドライト・自然換気システムの採用 高効率熱源と居住域空調、空気式放射空調の採用 中央監視装置による一元管理	4.5/5.0	4.5
LR-2 ■資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水型便器の採用 R410A,R32の採用	2.7/4.7	2.8
LR-3 ■敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	主要窓ガラスのLow-e採用	0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		**Rの平均点**	**3.1**
Q-2 ■サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	アルミ製建具の採用	0.3/0.5	3.4
LR-2 ■資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水型便器の採用	2.2/4.0	2.8
LR-3 ■敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な数の駐車場整備	0.2/0.4	3.0
ヒートアイランド現象の緩和(H)		**Hの平均点**	**3.2**
Q-3 ■室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	周辺生態系に配慮した植栽 屋上緑化	1.4/2.3	3.0
LR-1 ■エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	主要窓ガラスのLow-e採用 ハイサイドライト・自然換気システムの採用 高効率熱源と居住域空調、空気式放射空調の採用 中央監視装置による一元管理	4.5/5.0	4.5
LR-3 ■敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	主要窓ガラスのLow-e採用	0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要

内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。	実績スコア合計/最高点のスコア合計	ライフサイクルCO2評価対象項目への貢献点 注)(5点満点)
建設段階			
Q-2 ■サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	アルミ製建具の採用	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	主要窓ガラスのLow-e採用 ハイサイドライト・自然換気システムの採用 高効率熱源と居住域空調、空気式放射空調の採用 中央監視装置による一元管理	4.5/5.0	4.5

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEE-川崎2017年版
明治大学生田キャンパス　第二中央校舎(仮称)整備計画

欄に数値またはコメントを記入

22036

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	重点項目 G	重点項目 W	重点項目 R	重点項目 H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.5
Q1 室内環境							0.40		-	3.7
1 音環境						3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.30	3.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.30	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	0.20	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	0.20	3.0	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						3.6	0.35	-	-	3.6
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.60	3.0	-	
2 外皮性能		W			LowEガラスの採用(U値:1.6)	3.0	0.40	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式					床吹出による居住域空調および空気式放射空調の採用	5.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						3.2	0.25	-	-	3.2
3.1 昼光利用						2.2	0.30	-	-	
1 昼光率						1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		W			ハイサイドライトの採用	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		W				3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度					設計照度上はかなり高照度が取れるが、自動調光にて適切な照度に設定	3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御					教室・図書館など主要部に明るさセンサーを設置、トイレは人感制御を設置	5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						4.7	0.25	-	-	4.7
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆の採用	5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						4.0	0.30	-	-	
1 換気量					35㎥/h・人の換気量を確保	5.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮					屋上からの外気取入れ　排気との離隔確保	4.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO_2の監視					中央監視によるCO2濃度監視	5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御					大学敷地内は原則禁煙、定められた場所のみ喫煙可能	5.0	0.50	-	-	

Q2 サービス性能							_	0.30	-	-	3.2
1 機能性							3.0	0.40	-	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ							3.0	0.40	-	-	
	1	広さ・収納性					3.0	-	3.0	-	
	2	高度情報通信設備対応					3.0	-	3.0	-	
	3	バリアフリー計画					3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性							3.5	0.30	-	-	
	1	広さ感・景観					天井高さ、1,2,3階は3350、4,5,6階は3130	4.0	0.50	3.0	-	
	2	リフレッシュスペース						3.0	-	-	-	
	3	内装計画						3.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理								2.5	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保						2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性								3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振								3.0	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数								3.4	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数			R			3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			R			2.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R			3.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔			R			3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔			R		給水管、排水管、冷温水配管でB以上の配管材を選定	5.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔			R		大部分の機器の耐用年数が20年以上	4.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性								3.4	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備					配管系統の分散によるオールダウン回避 重要系統の空調は専用空調とし非常電源対応	5.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備						3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性								3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり								4.2	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり					階高、1,2,3階は4.8m、4,5,6階は4.1m	5.0	0.60	3.0	-	
	2	空間の形状・自由さ						3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり								3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性								3.4	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性					大部分の配管が屋外、機械室内、屋内露出となっており、構造体および仕上げ材への影響が軽微	4.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性					屋上、コア内及びピット内で衛生配管は完結しており、構造体および仕上げ材への影響が軽微	4.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)								_	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			G	W		H		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			G				デザインコードを踏襲し、既存建物との景観の調和、歴史的建物(建築家・堀口捨己氏)の大庇を継承(再生)	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮								3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上							庇やバルコニー、ハイサイドライトの採用	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			G	W		H		3.0	0.50	-	-	

スコア

LR 建築物の環境負荷低減性						-		-	3.5
LR1 エネルギー					_	0.40	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H	主要窓ガラスのLow-e採用	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		W		H	ハイサイドライト及び自然換気システムの採用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		W		H	[BEI][BEIm] = 0.49	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価						3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		W		H	中央監視装置による一元管理	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価						-	-	-	-	
4.1 モニタリング		W		H		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					_	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護		W	R			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水					大便器、小便器とも節水型を採用 自動水栓の全面採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減		W	R			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R		_	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R		_	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						3.0	0.70	-	-	
1 消火剤		W				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		W				3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		W				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					_	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		W			運用段階の一次エネルギー消費量を51%削減	4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮						2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止					オール電気のシステムのため燃焼機器なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			R			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			R			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			R			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			R			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮						2.1	0.33	-	-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
1 騒音						3.0	1.00	-	-	
2 振動						-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制						1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制						1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制						3.0	-	-		
3 日照阻害の抑制						3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制						1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						1.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	